

シェア・インターナショナル ニュース

“出現”の徴、頻度と数が増加する

あらゆる人々、—— 信仰を持つ人も持たない人も —— に現れた奇跡現象がほとんど毎日のように世界中で報告されている。シェア・インターナショナル誌はこれらの現象を何年にもわたって掲載してきた。懐疑的な世界はこれらの出来事をそれぞれ別個の出来事として見、関連付けて考えることも、その背後にある意味や理由について疑問を呈することもなかった。

本誌編集長ベンジャミン・クレームは、これらの奇跡現象はすべて同じ源から来るものであり、一つの目的、すなわち世界教師マイトレーヤと彼のグループである智恵の大師方の出現の徴として現れていると説明する。ベンジャミン・クレームは毎月、智恵の大師（覚者）の一人から記事を受け取っている。2006年4月に発表された記事には次のような述べられている。

「涙をながしたり、動いたりする様々な彫像から、世界中で見られる建物全面を飾る光のパターン、輝く光の十字架、ミルクを飲むヒンズー教の神々の像に至るまで、徴は限りなくある。それらの不思議な出来事に心を動かされない人々はほとんどいない。もちろん疑い深い人々や懐疑的な人々はいつの世にもいる。しかし、それも長いことではない。非常に間もなく、期待の風潮は高まり、至るところにいる人間の心（ハートとマインド）にしっかりと記録されるだろう。そしてその期待に満ちた風潮の中にマイトレーヤはお出ましになり、彼の使命を公に始められるだろう」

最近世界のメディアが報道した驚くべき奇跡のいくつかをここで紹介する。ベンジャミン・クレームによれば、これらの奇跡は世界教師マイトレーヤと彼のグループである智恵の大師方によって現されたものである。

■ 問い合わせ先 ■

Share International

PO.Box 3677, London.NW5 1RU.
Tel.020-7482 1113; Fax.020-7267 2881
<http://www.share-international.org>

シェア・ジャパン

〒194-8691 町田郵便局内・私書箱16号
Tel/Fax. 042-799-2915
<http://www.sharejapan.org/bcworks/>

ネパールの少女が額からガラス片を出す



photo:Janak Nepal

西ネパール、チカプールの12歳の学生サリタ・ビスタさんの額から不思議にもガラス片がでてきている。2006年1月以来すでに130個のかけらが出てきた。8月7日からはこの途方もない出来事が毎日続いている。ガラス片は平均で長さ3.8センチ、幅1.5センチあり、一日に12個も出てくることもある。

「最初は額に引っかき傷のようなものがありました。それを擦ってみると、ガラス片がでてきたのです」と少女の母ダンサラさんは語る。「娘は痛みは感じませんが、ガラス片がでてくる時、時には気を失うこともあります。少し血がにじむことはありますが、傷はすぐに癒えます」。家族はサリタさんが心身共に健康で、いかなる事故にもあったことはない、と断言している。

ネパールの医学界はこの現象を調査しているが、その中にはコハラプール医学大学やネパールグンジ教育病院（NTH）の教授や医師のチームも入っている。CTスキャンや血液検査にもかかわらず、説明できる材料はない。「光ったガラス片のようなものが額の皮膚から出てきているのを見ることができる。しかし頭蓋にはガラスは見当たらない」と、NTHの副理事長ジテンドラ・マハセス博士は語った。同僚のケドワイ博士はそれを、「奇妙な症例」と言った。頭蓋が不自然に成長したことで角が生えたように見える例は数多く報告されているが、人間の体はガラスを作り出すことはない。

1996年にも同じようなことが12歳のレバノンの少女、ハスナ・モハメド・メセルマニさんに起こった。彼女は、紙を切ることさえできるほど鋭いかみそりの刃のような水晶を目から出したのだ。

新しい‘ミルクの奇跡’

何千人もの人々が、ヒンズー教のミルクを‘飲む’像を目撃するために、インドの多くの地域にある寺院に群がった。最初に報道されたのは2006年4月20日でインド北部のウッタルプラデシュであり、その奇跡は急速に多くの州に広がり、クリシュナやシバ、ドゥーガ、ガネーシャなどの像に捧げられるミルクが消えてしまうのを多くの人々が目撃した。クックナウ、コルカタ、デリーでは寺院の外に長い行列ができ、群衆のために寺院は夜遅くまで開かれていた。同じような奇跡が人々の家にある様々な像にも起こっている。11年前の、1995年9月に、世界のメディアは驚くべき‘ミルクの奇跡’を報道した。何万何千ものヒンズー教徒が世界中にあるヒンズー教の寺院や神殿に群がり、捧げられたミルクを‘飲む’像を自分たち自身で目撃したのである。メディアの報道は大規模で、懐疑的なジャーナリストさえミルクを入れたスプーンを神々に捧げて——そしてミルクが消えるのを目撃し、謙虚な気持ちになったのである。

(インド、AP通信、ロイター通信)

マドンナの像が香りのある水をたらす

マドンナ（聖母マリア）の像から奇跡的に香りのある水が滴り落ちるというニュースが広がって、何百人もの様々な信仰の人々がインドのケララ州コチ近くのヴェリ村にあるカトリック教徒の家に出かけていった。その奇跡は2006年8月21日に最初に発見された。目撃者によれば、像から滴り落ちる水は「良い匂い」がするという。地元の商店主、アレクサンダー・ヤコブ氏は述べた。「本当だよ。像から滴り落ちる水を私は触ってみました。あれは聖母マリア様からの奇跡です」

水を噴出する不思議な樹

米国テキサス州サンアントニアにあるルシール・ポープさんの家で、樹齢100年の古いオーク（樺又はかしわ）の樹が過去三カ月の間その幹から水を噴出しつづけた。ジャーナリストのケアリー・クラーク氏はサンアントニア・エクスプレス・ニュースにこう書いた、「ポープ夫人の家の裏庭に入っていくと、大きな赤いオークの樹から、丁度急須からお茶を注ぐように、絶えず水が流れ出ているのを見て、私は目を見開らいた、そして驚きと信じ難い思いで頭を振りながら、言った——『何てことだ、あの樹は漏らしているのではないか』」。ポープ夫人が言うには、ある訪問者が蜘蛛に噛まれて腫れ上がったとき、その水を数滴つけたら、腫れが引いたという。また彼女自身も痛んだ足首を水の中に浸けたら急速に良くなったという。この「不思議な樹」はまさに特別であり、水には治癒力があると彼女は信じている。

(アメリカ、CCN、AP通信)